雜　　錄

最近に於けるベルギー並にルクセンブルグ製鐵鋼業の眞相（海外鐵鋼情報第五號・鐵鋼協議會・アイアンエージ誌 1927 年 4 月 7 日號抄譯）

佛國ローレーン鐵鑛地帶を漏斗の頭部にたとへればベルギーは恰も其出口ともいふべき位置を占めて居る。フランスから海外に輸出する銑鐵及鋼材は大部分アントワープ港を經由すると同時にフランス產の鐵鑛と銑鐵とを原料として造つたベルギー產の鋼材も亦アントワープ港から輸出されるルクセンブルグ（1839 年に二つに分れ一半はベルギー領土となり他半は獨立の大公國となつた）は 1842 年以來、戰後迄獨逸關稅同盟の加盟員であつたが 1922 年 5 月 1 日、經濟上の理由から進んでベルギーと聯合した。現在其の生產品はベルギーを經由して海外に輸出される。

兩國とも小國で面積から云へば兩者を併せて米國メリーランド州より尙小さい位であるけれども割合に大規模の製鐵業がどちらにも發達し多大の鋼材並に鐵製品を輸出して居る。ルクセンブルグの全產業はローレーン地方に存在する鐵鑛によつて存立しておる。而して該地方住民の約半數は鐵鋼材（主として輸出向）の生產に從事しておる。

ベルギーには各種の製造工業が發達し鋼材、機械並に各種鐵製品の輸出をなすのみでなく・織物、ガラス、セメント硬質陶器の類を初め鐵以外の各種金屬製品を輸出して居る、斯樣にベルギーは自身の製造工業が盛大で且人口が歐洲諸國中最も密なる國にかゝわらず隣接せる工業國に對しては其の製品を取扱ふ中央市場の如き立場にある、尤も農業がベルギーの主要產業であることは依然變りない。全國就中南部に於ける大部分の住民は小面積の土地によつて生活して居る、男子は鑛山や工場に働き耕作には婦人が當つて居る。

ベルギーは鐵鑛及石炭を輸入せねばならぬ　ルクセンブルグには自國產の鐵鑛が消費し切れない程に產出するが石炭は出ない。ベルギーには多量の石炭が出る、然し全國の需要が莫大なるためそれ丈では尙足りない、鐵鑛の方は全然輸入に賴らなければならない以前ベルギーの產業は各地方から產出する鐵鑛によつて成立つておつた。然し今日では鐵鑛產地は唯一つミウズ狹谷に殘つて居るものだけである、其も浸水して採掘が六ケ敷く鮞狀赤鐵鑛（ウーリテイツク、レツトヘマタイト）といつて熔解の困難な種類の鑛石である、ベルギーで現在用ゆる鑛石は種類からいふと全體の 9 割迄はミネツテーである。消費量からいふと全體の 7 割 5 分はローレーンから、1 割 6 分はルクセンブルグから取り、7%內外が瑞典鐵鑛で 1 乃至 2% が自國產である。尤も自國に鑛石が少ないにかゝわらず、ベルギーは鐵の輸出をやつておる、それはルクセンブルグと聯合した結果で最近の輸出額は始んど年 200 萬瓩に達して居る。

燃料の點ではベルギーは熔鑛爐用骸炭の殆んど 1/5 を輸入せねばならぬ、殘り 4/5 は自國產骸炭であるが、その 6 割乃至 6 割 5 分は輸入の石炭で製造せなければならない、昨今北方に於てカムンパヌ炭田の採掘が始まらんとし且南方炭田で新發見があつたけれども、ベルギー及ルクセンブルグは尙平時使用の大部分をウエストフアリヤ炭(獨逸產)に賴らなければならない。

優越せるベルギーの地理的位置　地理上ベルギー國の位置は特に優越して居る、國土が恰も歐洲諸國と英、米並に極東其他諸外國との間に在つて通商貿易の樞要な位置を占めて居る。舟運の便自在なる河川は縱橫に工業地帶に掘鑿されてる運河によつて聯絡がとれて居る、鐵道運賃は（1926 年 7 月 1 日以降私設となれり）低廉で輸送は停滯がない。尙補助運輸機關として、米國にウイングランドの各地方に見る輕便急行トロリーの樣な輕便鐵道がある、片田舍の道路も立派に平坦で商品や物貨の運般は極めて便利である、尙以上の如き運輸の諸施設は總てアントワープ中心になつて居る港としてのアントワープの設備は極めて整頓し、大型船に對する積込、積卸費用の低廉なる、歐洲大陸諸港の中その右に出るものはない。運河通ひ船の運んで來た製品は波止場に碇泊して居る遠洋航路船の船側に橫附けして直ぐ荷役が出來る樣になつておる。

ベルギーから各方面への距離は何れも近い。例へばルクセンブルグからベルギーのリエージュ又はシヤロワへ鐵鑛を運ぶには僅かに 90 哩であるし佛領ローレーンの中心たるブリエーから其等の地點へは僅かに 150 哩である。戰前ブリエーから運ぶ運賃は 4 フラン半から 5 フランの間であつた。これは米貨にすると平均だか 90 仙にしか當らない。弗に換算すると運賃は戰前より戰後の方が確かに廉い。

勞働者は勤勉であるが癖がある　ベルギーにはフランス人とフランダース人とあれども何れも善良なる勞働者である。彼等はよく長時間の勤勞に耐える。親の代から職工をして、彼等は熟練工となつて居る。鍊鐵製造工の如き正に其の適例である。

2—30 年前には炭坑地方の婦女子は結婚する迄は大抵何か炭坑の仕事に從事した。其の後も婦女子は克く激しい勞働に從事し勞力供給上一大貢獻をなして居る。然し此の供給力は 8 時間勞働制によつて少なからず減つた 8 時間制を採用した丈で鐵道其他多數勞働者を使用する所では人間を 3 割多く使はてなければならなくなつた。

自主的で偏執なるベルギー勞働者は日產能力を減じたばかりでなく、1 時間當りの生產能力を減じたといふ非難が近頃喧ましい、尤も此の種の非難は無論割引して考へなければならない、とにかく勞働者は「過大なる筋肉勞働により疲勞の極にあり」との、ベルギー勞働同盟の宣言は此後注意に値する事と考へられる。

賃銀は安く生活標準も低い　從來ベルギーでは機械力よりも寧ろ人力を多く用ゐた、人力は決して低廉なものでない、骨折の割合に賃銀は廉かつた、結局仕事の多い割合に勞働者の生活は見すぼらしかつた。尤も各家庭には工賃を稼ぐ人が大抵 1 人以上あつて其の所得と家庭內に於ける主婦の働とを合

して相當に生計を支へて行つた。かゝる主婦の働は他國にあつては家庭外に賴むため特に失費となる所のものである。斯樣なわけで、ベルギーの勞働者はその收入の少いにかゝわらず少し宛貯蓄をなす事が出來た。

現在勞働者の9割迄は勞働組合に入つて居る、通貨膨脹時代辛ふじて生活を維持し得た賃銀に對し今や不平の聲が次第に昂まつて來た。同盟罷工は、一層頻繁となつた。シヤロワ地方に於ける製鐵事業は、1925年6月に初まつて7ケ月間繼續し、リエージュに於ける壓延工場は一時閉鎖せねばならなくなつた程に脅威を受けた所の同盟罷工によつて殆んど其の年一杯事業經營上大障害を蒙つたのである。

舊設備に代る新設備　獨逸人はベルギーを恐るべき競爭者と考へたから、戰時ベルギー占領中故意にベルギーの製鐵所を破壞した。然しその結果は獨逸人の希望と、全然正反對になつた、なぜなら、フランスに於ても同じ事であるが能率優秀なる工場が、却つて、舊式工場の代りに建設さるゝことになつたからである。

舊建築物並に設備の大部分は獨逸軍のために基礎迄爆破せられたから舊工場の改造擴張に當つて何時も免れ難き不徹底な計畫に陷ることなく却つて新規蒔直しの工場を建てる事が出來た。

戰時中餘り損害を蒙らなかつた、ルクセンブルグに於ても矢張り多數の新工場が出來た。1926年末英國の人々がルクセンブルグの諸工場を視察したが各工場に於ける生產能率の高きを見て驚ひて居つた、殊に英人一行が賞讃した點は燃料と勞力との注意周到なる節約振りであつた。

生產高頓に增加す　1929年に於てベルギー及ルクセンブルグの鐵鋼生產高は從來のレコードを破つた。ベルギーの銑鐵月產額は1913年の20萬3,800瓲から1926年8月には31萬3,400瓲に增加した。ルクセンブルグの銑鐵生產高は1926年に於て、1913年と殆んど同じであつたが鋼材の生產高は1913年に於ける各月10萬9,000瓲から、1926年(3月)に於ける19萬2,700瓲に增加した。ベルギーに於ける鋼材生產額は銑鐵の生產增加と殆んど同じ割合で增加し1913年に於ける月產20萬2,300瓲から、1926年8月に於ける31萬2,900瓲に增加した。

他國との競爭に於て兩國が如何に强固なる地位を持つておるかは歐洲大陸鋼塊協定に加入するとき、ベルギーの製鐵業者が躊躇せる事實並にベルギーが愈々協定に加入の際、克く、有利な條件を克ち得た、事實によつて證明される。尤もベルギーの割當月額29萬5,000瓲は1913年に於ける平均月產を超ゆる事50%であるが、それでも1926年に於ける數ケ月の月產額よりも少ない。ルクセンブルグは20萬5,000瓲の割當額を與へられた(鋼塊協定會員全體の年產額を300萬瓲として)これは1913年に於ける鋼材平均生產額の殆んど2倍である尤も今日の所まだ其の割當額丈生產して居ない、又現在進めつゝある新設備が完成する迄は其の額に達せないであらう。

順調となれる銑鐵の供給　外國貿易の數字を見ると、銑鐵關係の事情が順調となつた事が分るベルギーは今日迄國內に消費する丈の銑鐵を自國で製造しなかつた。1913年の生產は244萬5,000瓲で輸

入は 60 萬瓲である、1904 年から 1913 年迄の間に、生産額は倍加し、1913 年以後に於て殆んど 50 %以上增加した、鋼材生産額は銑鐵と同じ割合で增加しておる、銑鐵の鑄物消費高も矢張亦增加して 1913 年に比し、1926 年には 20 %以上增して居る。

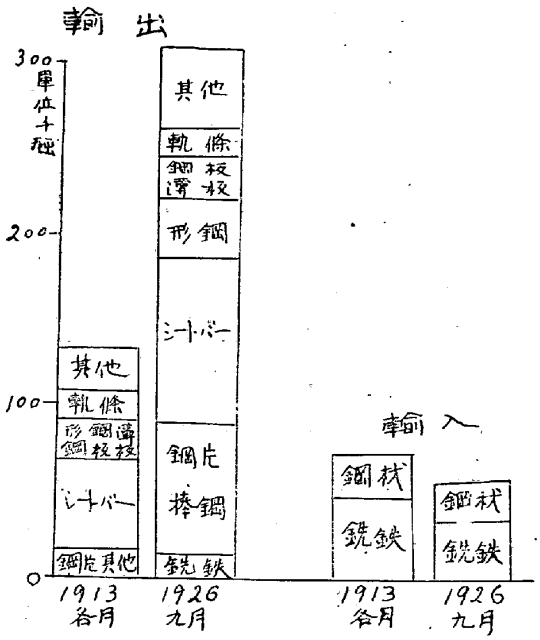
特殊の品位を有する銑鐵は現今コツケリール製鐵所(リエージ近傍にあり)で造られて居る。ベルギー銑鐵の大部分及び、ルクセンブルグ銑鐵の、殆んど全部はトーマス銑である、故に、低燐銑及稍と燐の低き銑鐵は英國と瑞典とから輸入して居る、銑鐵の輸入額は、1913 年に於ける月額 4 萬 7,000瓲から 1926 年の月額 2 萬瓲に減少した、これはルクセンブルグと聯合した事實により說明する事が出來る。

ベルギーの輸出入額 (1913 年、1923 年、1925 年及 1926 年、1913 年を除きその他はルクセンブルグを含む、單位千瓲)

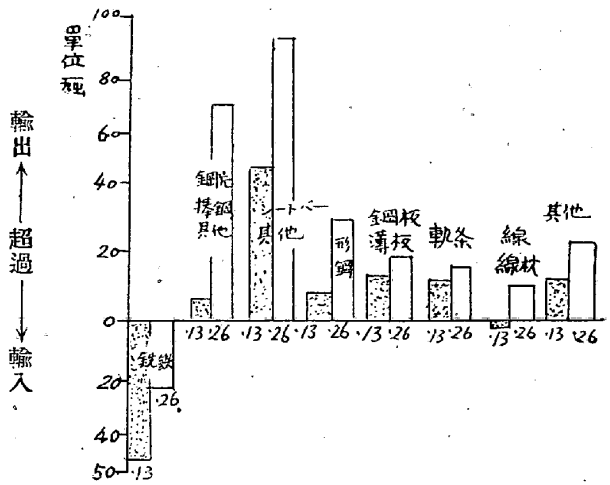
	毎月平均額							
	1913 年		1923 年		1925 年		1926 年9月	
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
銑鐵	48·3	1·4	27·5	6·8	27·1	8·1	34·2	10·3
鋼片、棒鋼其他	6·8	13·2	8·1	36·1	5·5	69·5	9·2	77·8
シートバー其他	4·1	54·1	1·6	94·1	(a)	97·0	(a)	98·4
形鋼	0·1	8·0	0·1	16·5	1·2	23·6	1·0	34·7
鋼板薄板	2·0	16·4	1·2	16·7	0·9	21·8	2·1	23·2
ブリキ板	1·1	0·3	1·3	0·0	1·3	(b)	1·2	(b)
亞鉛引板	0·1	0·5	0·1	0·1	(c)	1·1	(c)	1·1
軌條	0·7	13·7	0·1	17·0	0·5	14·2	0·4	17·0
線、線材	5·7	5·6	1·8	7·0	2·9	11·0	4·8	15·2
鋼管	1·8	0·5	0·9	1·1	0·9	1·7	0·8	2·0
鑄物	0·8	2·2	0·0	2·0	0·5	2·3	0·3	4·0
鍛鋼品	1·6	11·6	1·3	8·0	(d)	(d)	(d)	(d)
釘、ボルト其他	(d)	3·7	(d)	5·7	0·4	7·8	0·5	10·4
其他	0·9	0·1	0·4	0·1	3·0	5·6	4·3	16·6
合計	7·40	131·3	44·4	211·2	44·2	263·7	59·0	310·7

備考 (a)鋼片、棒鋼、其他中に含まる (b)亞鉛引板中に含まる (c)鋼板中に含まる (d)其他中に含まる

錬鐵生産額の減少と、從前に比し屑鐵の使用增大とは亦注目するに足る、屑鐵の使用高の增大は世界的の傾向であるが、ベルギー、ルクセンブルグに於ては元來その使用高は少ないのである、何故かといふに、全鋼材生産額の 9 割はトーマス鋼であつてその製造には、殆んど屑鐵を使はないからであるその爲め、屑鐵は常に過剩となり、ドイツ、イタリー、英國及フランスに輸出して居る、尤もベルギーでは、鋼片やシートバーの如き半成鋼材の製造が割合に多いから鋼材と云へば殆んど製品の形にされる英國などの場合に較べ鋼塊から出來る屑鋼の割合は少い方である、一方又屑鐵も種類によつてはベルギー、ルクセンブルグに輸入される、例へば薄手の屑鐵の如きはそれで、これは熔鑛爐に裝入され銑鐵になるものである、1925 年に於て、ベルギーで生産した銑鐵の 8·5 %は屑鐵から製造されて居る。



上圖は 1913 年及 1926 年の輸出入に就て主要品目別數量を示す、輸出は倍加以上に增加せるに反し輸入は減退を見たり



主要品目別輸入の差を 1914 年と 1926 年に區別して示す、1913 年以後輸出は常に增加し輸入は減退せり、銑鐵の輸入は減少せり、線と線材に於ては輸入超過は輸出超過に變じたり、其他の品目に就ては輸出が凡て增加せり

半製鋼材(ブルーム、ビレツト、シートバー類)ノ輸出增加　フランスと同樣ベルギーは半製鋼材(ブルーム、ビレツト、シートバー類)の輸出國であるが、ルクセンブルグとの聯合が出來た爲めその輸出(主として英國への)は益々盛である、尤も最近は、國內には 1925 年のシヤロワ罷業並に 1926 年 1 月の、ミユーズ及サンブル峽谷に於ける、大洪水があつて製造上少なからず困難を來し海外には英國の石炭罷業が起つて半製鋼材の需要も常軌を逸したのでその生產狀態も大分亂調子である。

軌條、形鋼、厚板及線材の輸出は大に增した、鐵條網を初め各種針金製品の輸出增進及釘類の取引も亦盛である。前表では半成鋼材と一緒になつて居るが 1925 年及 26 年の兩年に於ける棒鋼類の輸出は每月殆んど 7 乃至 8 萬瓲に達しておる。

米國はベルギーから軌條ばかりでなく建築用鋼材をも多量に購入する。

殊に米國大平洋沿岸は盛に買入れる。元來ベルギーと米國との間には製造原價の上に瓲當り 12 弗から 18 弗の開きがあるが米國內生產地から大平洋岸迄の鐵道運賃よりもアントワープから米國大平洋岸迄の運賃の方が廉いために、其の開きが一層大きくなるのである。勿論ベルギーは其の製品を捌くのに世界を相手として居る。例へば前記の如き各種製品は極東や南米にも盛に輸出する格安な鋼板や薄板の常華客は英國(英、蘇格蘭、愛蘭)及英領印度である。尤もブリキ板はサウスウエールス(英國)から輸入し、品によつて軌條や形鋼をフランスや獨逸から少量は輸入する。

管類(鑄鐵管、鋼管、附屬品の輸出は盛である、又品により若干の鋼管は輸入されて居る。

政府發行の統計表が遲れて居るために前表中「其他」なる項目に掲げた輸出の著しく增加した理由を明にする事が出來ない、この中に含まれておるのは金型臺、粗鍛造材等の粗材や、針金加工品其他の

高級製品である、約7,000の勞働者が針金製造工場、並に針金加工工場に働いて居る、針金の生産額は毎月約2萬5,000瓲であるが、これは凡て加工されて各種の特種製品となり又は釘、垣根材料、其他の製品となる、靴釘、特殊の鋲類及釘、靴鋲、靴板等は同一工場で非常に多量に製造されて居る。

ベルギーは輸出を営まねばならぬ　ベルギーは人口が多いから、鋼材の國内需要もそれに比例して、多額である、然し内國取引の價格其他は結局外國市場によつて左右される、約4,000の人が機關車製造工場に働いて居る、又數千の人が建築用鐵骨や鐵橋を造る工場、起重機、ポンプ、鐵道材料、其他の大形機械を造る工場に働いて居る、而して其の製品は大部分海外に販賣されるものである。

ベルギーは英國以上に自國製品の輸出をなす外に、更に莫大なる外國品を取引して居る。

ベルギーの銀行は海外輸出に對する信用を保證し或は外國への投資を有利ならしめ輸出貿易の助長に多大の貢獻をした。コンゴー殖民地が開けないため、まだ大した鋼材の需要が起らないからベルギーは諸外國の鐵道其他の企業に資本を投じた。巨額の金が露西亞で損失となつた、然し海外投資事業の危險率が各國の種々の事業に分割されて居るから、其等の企業全體として啻にベルギーの製品に對する需要を增進したばかりでなく其の國々にとつても有利なる事が一般に認められた。

外國貿易の伸張には政府も努力し、有益なる統計や報告の頒布其他種々助成に力を惜しまない。輸出信用の保證をなし、1921年8月7日附の法律による最高2億5,000萬フラン迄の保證を昨年更に1931年迄延ばした。政府が中間に立つた事は大陸鋼塊協定に、ベルギーを加盟せしめた主要な原因となつた。これにより各地方に於ける製造者相互間の聯合は大に密接となつた。

協調は商賣を助ける　シャロワ及リエージュ、就中リエージュに於ては製鐵會社間は至つて親密である、或場合には共同計算で工場を働かし、或場合には各種の特種工場を經營した、然し最近迄かゝる協調の精神は範圍が地方的で國家的でないものが多かつた。然るに前記兩地方はお互に各種の國際的協調に多大の興味を感じ親密の度を一層濃くした。ルクセンブルグに於ける製鐵事業は有力なるアルベツド及テル、ルージュなる2會社の合併により既に事實上一つとなつた、兩會社はルクセンブルグ全産額の3/4以上を生産する。

今日ベルギーは未曾有の大生産力と、大輸出能力とをもつて居る。其の位地はルクセンブルグとの聯盟、オイベン及マルメデイー（獨逸より得たる）の獲得及アフリカ領土の發展によつて一層鞏固になつた、一方には莫大なフランス製品を轉賣し他方には、大仕掛に獨逸品を取引し悉く甘い汁を吸つて居る。

ベルギーは燃料には不足しておるが、ローレーン鐵鑛を原料として製錬加工し、是等の製品を英國其他諸外國に輸出する事に於て全く惠まれた位置を占めて居る。

輸出競爭が激烈にならう　戰前ベルギーは獨自の力により主要製鐵國の間にあつて獨逸や、英國に比敵する丈の地歩を獲得した。今後ベルギーの運命はフランス及ルクセンブルグのそれと同一の道程を辿るであらう。

此後は殆んど一つ國も同樣に活働する是等3國は通貨膨脹の人爲的刺戟で幸運を占め、又石炭罷業による英國工業の無力によつて多大の利益を獲得した、遮莫鐵鋼市場は佛、白、ルクセンブルグ聯合、獨逸、英國なる三勢力の白兵戰場となつて居る、此の競爭の三角關係は本年の終に近づくに從つて、かなり白熱化する事であらう。

歐洲各國に於ける銑、鋼材市價と輸出價格との格段なる相違（海外鐵鋼情報第六號・鐵鋼協議會・獨逸、ハンブルヒ、4月12日附、アイアンエージ誌 1927年5月5日版抄譯）歐羅巴に於ける殆んど凡ての製鐵國に於ては、其の國の銑鐵並に鋼材の市價と、輸出價格との間には、著大な「開き」がある、本年3月に於て、兩者を比較して見ると、銑鐵では輸出價格が市價より低きこと4乃至45％、半製鋼では4乃至40％、製品に於ては3乃至40％に當つて居る、次表は英佛を初めとし、其他8ケ國に於ける、同じく1927年3月に於ける兩者の「開き」を％で表はしたものである。

國名	銑鐵	半製品	製品	國名	銑鐵	半製品	製品
英國	5·0	4·0	7·5	オーストリア	21·0	27·0	24·0
ベルギー・ルクセンブルグ	10·0	10·0	9.0	チエックスローワック	22·0	29·0	31·0
フランス・ザール	12·0	12·0	11·0	ポーランド	45·0	40·0	40·0
獨逸	18·0	15·0	26·0	スエーデン	4·0	0·0	3·0

此の比較は云ふ迄もなく、各國に於ける銑鐵、半製品及製品の內國市價に對し、各々の國に於ける、輸出價格を比較し、その「値開き」を、市價の％で表はしたものである、ポーランドに於ける兩者の「開き」の特に著しいのは、國際鋼塊協定加盟の基礎として、ポーランドが要求した比較的高い割當額の決して無理でない事を明にせんがために、輸出貿易の增加に、同國の製鐵業者が、努力したために外ならない。

大製鐵鋼業に於ける8時間勞働制（海外鐵鋼情報第七號・鐵鋼協議會（伯林1927年7月13日電報通信）1927年7月14日DBZ紙抄譯）昨今獨逸勞働省に於ては、8時間勞働制に關する、獨逸經濟會議の決定に就て、ラインランド、ウエストフアーレン、オーバーシレヂエン、中部及南獨逸、鐵鋼業代表者間に、協議が進行中である、經濟會議の意見によれば、獨逸勞働大臣は1923年12月21日の勞働時間に關する布令に基き、その實施が國內何れかの部分に於て、或は國民經濟に重要なる、產業に於て特に著しき障碍を惹起することなく、其の實施を猶豫することなきことの必要起らざる限り、1928年1月1日以後、製鐵鋼業に於て、純8時間勞働制を實施すべき權限を附與されてゐる。

斯くなる上は、吾人は只次の如きことに一縷の望を囑するのみである、即、現狀に於て8時間勞働制を實施することは、單に勞働者を利するのみで漸く玆に利益を見んとするに至れる製鐵鋼業の芽生ひを二葉に於て毟り取る如き結果になると云ふこと、又大臣がその政策を行ふに當り、從來工業界各方面から絕叫されておつた、警告に耳を傾けないならば大臣は啻に製鐵鋼業に對してのみならず全經濟界に對し、非常に重大な責任を負はなければならないと云ふことを勞働大臣に說得する事である。

新に加へられたる獨逸製鐵鋼業の重荷（大製鐵鋼業に對する新勞働時間制度の經濟的影響）

(海外鐵鋼情報第八號、鐵鋼協議會) 獨逸勞働大臣ドクトルブラウンス氏は既報の如く、1927 年 7 月 16 日の布令に基き、1928 年 1 月 1 日より實施せらるべき、製鐵所、壓延工場、其他大製鐵業の各工場に關する、新勞働時間制度を發布した。之によつて 1928 年 1 月 1 日以後は、愈々主要なる製鐵作業に對し、勞働時間の短縮が實行さるゝことになるのである、新制度は製鐵鋼業に對し重大なる經濟的荷重と云はねばならぬ。

或一大製鐵所に就て、計算して見るに勞働者數は現在作業に比し以下の如き割合に於て增加さるゝであらう。即、

作業種類	增加率%	作業種類	增加率%
トーマス式製鋼工場	38·0	トーマス工場機械係	41·0
熔銑工場	50	平爐工場機械係	49·0
平爐工場	31·7		

全製鐵作業の總平均で現在迄の勞働者數に對して、37.5 %丈增加する。

壓延工場に對する影響を見ると以下の如き數字となる。

作業種類	增加の割合%	作業種類	增加の割合%
一般壓延工場	38·0	壓延工場機械係	43·0
線材壓延工場	45·0	鋼板壓延工場機械係	50·0
鋼板壓延工場	41·2	線材 〃	50·0

全壓延工場の總平均で現在の職工數に比しその增加率は 39·1 %となる。

附帶作業に及ぼす新制度の影響は次の如くである即均熱爐煉瓦積作業に於ては 25 %を增し、手先作業に於ては 30 %、精整作業に於ては恰も 40 %丈增加し、以下は之に準じて增加する、そして附帶作業總平均で 38 %の增加となる。

如斯職工數を增加する結果職工賃銀に對する影響は云ふ迄もなく甚大である、上述せる製鐵所の場合で勞働者一交代の標準賃銀 10 馬克なる鋼熔解作業に於ては 1 ヶ月恰も 5 萬 100 馬克丈增加し、一交代の賃銀 11 馬克なる壓延工場に於ては、10 萬 5,200 馬克の增加となる尙附帶作業に於ては恰も 2 萬 6,100 馬克增加する、結局全作業に對する增加額は 18 萬 2,000 馬克で、之を年額に見積れば正に 218 萬馬克となり上述の製鐵所に於て 4 %の配當に相當する。

上述製鐵所に於ける、社會施設に對する失費の增加を戰前に比較することは頗る興味ある事である、以下示す所の數字は老癈、疾病並に傷害保險及失業救濟に對する失費である尤も事務の保險は含んでおらない。

1914 年 3 月				1925 年 5 月			
雇主側の失費	每一人	5·55馬克	賃銀高の 3·95%	雇主側の失費	每一人	7·57馬克	賃銀高の 4·15%
被雇者側の失費	〃	4·36〃	〃 3·1 %	被雇者側の失費	〃	8·18〃	〃 4·4 %
計		9·91〃	7·05%	計		15·75〃	8·55%

1926年10月				1927年3月			
雇主側の失費	毎一人14·19馬克		賃銀高の 6·7 %	雇主側の失費	毎一人14·12馬克		賃銀高の 6·0 %
被雇者側の失費	〃	10·21〃	〃 4·8 %	被雇者側の失費	〃	10·44〃	〃 4·4 %
計		24·40〃	〃 11·5 %	計		24·56〃	10·4 %

之によれば 1,914年 5 月に對し、1927 年 5 月に於ては每一人に對する雇主側の失費は、154 %丈增加し、賃銀額に對して 52 %丈增加したものである、又每一人の被雇者側失費は 140 %丈增加し、賃銀額に對しては 42 %丈增したものである故に雇主側の失費は戰前に比し現在に於ては一倍半以上高くなつた、上述せる製鐵所に於ては、1914 年 3 月には、社會保險(雇主側の分) に對する失費は、3 萬 1,913 馬克であつたが 1927 年 5 月には 8 萬 8,056 馬克に增加した、故に此の月額を基礎として計算すれば大戰直前の年に於ける 38 萬 8,000 馬克に對して今や 150 萬 6,000 馬克に增加した。

英國經濟界大觀第四產業の內拔萃(前承)(海外商報 920, P 683) 主要鐵鋼會社と製品價格　以上說述せるが如く 1926 年過半期に於ける斯業は殆ど休業同樣の有樣にして、僅に大陸製品の供給に依て作業の命脈を維持し得たるに過ぎなかつた。夫れで生產は極度に制限せられ、其市價も奔騰を見るに至れるも、需要者側に於ては出來得る限り注文を手控へたる結果、引合成立せるものは僅に實需品に極限せられた。其結果鐵鋼會社中には經營上障支を來し、整理解散も餘儀なくされたるものも一二あつて、全般的に斯業會社の營業成績は極めて不振に終つたのである。次に主要會社普通相場及製品價格を示し參考に供する。

鐵鋼會社普通株相場表

會社名	拂込	1913年 最高	1913年 最低	1919年 最高	1919年 最低	1926年 5月3日	1926年 11月1日
Baldwins	£1	21/9	21/4½	48/6	31/0	8/0	8/9
Bolckow, Vaughan	〃	22/6	19/4½	31/6	23/6	6/0	8/6
Cammell, Laird	〃	15/6	11/6	28/3	21/0	7/6	9/9
Consett Iron	〃	95/0	74/6	120/3	32/0	13/7½	18/9
Dorman, Long	〃	21/6	16/9	45/0	26/10½	9/6	10/9
Guest, Keen	〃	68/9	61/3	140/0	30/0	30/0	37/3
Stewarts, & Dodys	〃	47/0	40/0	80/0	61/0	25/0 ——	31/10½
Swan, Hunter	〃	19/1½	16/0	75/0	30/0	22/9 ——	24/4½
*Viekers	6/3	43/6	30/3	44/0	31/0	7/0 ——	8/9

鐵鋼製品相場 (月末B·O·B)

月日＼品目	クリープランド 三號	タンクプレート 英國品	タンクプレート 大陸品	ブラックシート 英國品	ガルヴナイズドマイルドスチールコルゲーテッドシート 英國品	ガルヴナイズドマイルドスチールフラットレート 英國品	マールドスチールバー 英國品	マールドスチールバー 大陸品	スチールレール(60lbs以上) 英國品	スチールレール(60lbs以上) 大陸品	鉄力 英國品
	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片
1月	3,10,1	7, 0,0	5,17,0	14,17,0	23, 5,0	25, 0,0	7, 0,0	5, 5,0	6,15,0	5,4,0	19,1
2	3,10,1	7, 0,0	5,17,0	14,17,0	23, 5,0	25, 0,0	7, 0,0	5, 5,0	6,15,0	5,3,6	19,1

	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片	磅,志,片
3	3, 0,0	7, 0,0	6,14,0	14,15,0	22, 5,0	24, 0,0	7, 5,0	5, 5,0	7, 0,0	6,0,0	19,2
4	3,16,0	7, 0,0	5, 8,0	13,17,6	23. 5,0	25, 0,0	7, 0,0	4.17,0	6,15,0	6,0,0	19,0
5	3,12,6	7, 5,0	6,10,0	13, 7,6	22, 5,0	24, 0,0	7, 50	4,16,0	6,15,0	6,0,0	1, 0,0
6	3,18,0	7, 5,0	5, 5,0	13,12,6	22, 5,0	24, 0,0	7, 5,0	4,13,0	6,15,0	6,0,0	1, 1,0
7	4, 4,0	7,10,0	5, 5,0	13, 7,6	22, 5,0	24, 0,0	7,10,0	4.15,0	6,15,0	6,0,0	1, 2,0
8	4,10.6	7,10,0	5, 8,0	13,12,6	22,15,0	24,10,0	7,10,0	5, 0,0	6,15.0	6,0,0	1, 1,0
9	5, 7,0	7,10.0	6, 0,0	15,15,0	23,15,0	24,10,0	7,15,5	5, 5,0	6,15,0	6,0,0	1, 1,6
10	6, 0,0	7,15,0	6, 2,6	15,15,0	23, 0,0	24,15,0	7,15,0	5,12,6	6,15,0	6,2,6	1, 2,0
11	6, 0,0	8, 7,6	6, 7,6	15,15,0	23, 0,0	24,15,0	8, 7,6	5,13,0	7,15,0	6,7,6	1, 3,0
12	5, 5,0	7,15,0	7,10,0	15,15,0	23,15,0	25,15,0	8, 1,0	5,10,0	7,15,0	6,0,0	1, 1,9

鐵鋼業の國際的考察　以上英國斯業大要概說に加へて、斯業の國際的經過を略述することゝする。製鐵及製鋼は歐洲に於て單に國際經濟上に其樞要なる地位を占めて居る許りでなく、國際政治上にも亦殆ど同樣重要なる地位を有するものである。抑も我々現在の生活を的確に表現すれば「鐵鋼の時代」なりと謂ふを得べし。蓋し社會生活も、經濟生活も凡てが全然鐵と鋼とに其基礎を置いて居るからである。隨て夫れが國際政治上に影響するのは當然の歸結であると云ふ事が出來る。併し茲に云ふ政治上の重要地位と云ふのはさうした一般的理由からではない。即ちベルサユ條約の結果として歐洲地區の區劃が變更せられ隨て產鐵鋼の大中心地である或地方が新定國境線によりて戰前の所屬國より分割せられ夫れが爲以上生產地と需要地の間には戰前嘗て存在しなかつた關稅の障壁が設定せらるゝに至つたと云ふ其事情にも原因するのである。で此歐洲國際政局の整理變更によりて新に生じたる狀態は鐵鋼業に如何なる結果を與ふべき乎、將又現在に於ける斯業は其影響の下に如何に發展すべき乎、夫等の問題を考究する前に先づ世界に於ける製鋼業の分布と各國生產の狀況とを考察するの必要がある。次表は 1913 年、1920 年及 1926 年に於ける世界主要鐵鋼國の實際生產額であつて、夫等諸國の戰前に到達し得たる地位、戰爭の結果に因る膨脹及戰後回復し得たる程度を示すものである。

鐵鋼世界生產額　(單位千噸)

	銑鐵				鋼塊及鑄鋼			
	1913 年	1920 年	1925 年	1926 年	1913 年	1920 年	1925 年	1926年
英國	10,260	8,035	6,262	2,442	7,664	9,067	7,385	3,560
獨逸	16,499	6,934	10,018	9,493	17,334	9,133	12.004	12,150
佛國	5,126	3,380	8,361	9,246	4,614	3,003	7,330	8,255
白耳義	2,446	1,099	2,502	3,323	2,428	1,233	2,372	3.321
ルクセンブルヒ	2,508	682	2,326	2,445	1,305	576	2,054	2,183
ザール	—	—	1,429	1,590	—	—	1 550	1,085
西部歐洲計	36,839	20,130	30,898	28,539	33,345	23,012	32,696	31,154
米國	30,966	36,926	36,701	39,096	31,301	42,133	45,394	47,134
其他の國	10,195	4,444	7,901	8,865	10,654	5,355	10,910	11,712
世界見積額	78,000	61,500	75,500	76,500	75,300	70,500	89,000	90,000

(イ)米國　世界の鐵鋼業に於て最顯著なる進步をなしたるものは云ふ迄もなく米國である。白耳義

の生產額も戰前に比して著しき發達を示して居るが固より米國に比肩し得る程ではない。前表に示すが如く、世界鐵鋼の總產額は尙未だ 1913 年當時の額に到達して居ないのであるが、米國のみは異常なる發達をなしたのである。之は米國以外の鐵鋼業界全體殊に英國生產品販路の主要部分を成す諸國が何れも皆信用と通貨の經濟的攪亂の影響を蒙り戰後の恢復思はしからざるものありたるに拘らず米國丈けは國內需要旺盛にして何等の波動をも受けなかつたからである。

以上の如く歐洲諸國が金融逼迫に惱んで居た時に當つて米國は有史以來未だ嘗て類例なき黃金の大洪水を現出したのである。此の黃金過剩の問題は同國銀行當局者の傑出せる手腕に依て處理されたが併し其裡に胚胎した物價騰貴の脅威は未だ之を防止する事が出來ないのである。併し同國に於ける或程度迄の物價騰貴は國內商業の繁榮には重大なる影響を與へる事はあるまいが輸出貿易は殆ど禁制的阻止は今直にとは謂へざるも國內需要が甚だしく硬塞せらるゝの時機到來に際しては米國斯業發展維持の上から見て重大視せらるゝ事となるべきであるから米國の鐵鋼業は將來に於てより多く國際的に考察せられねばならない。尤も現情に在つても若し米國鐵鋼業者が時に眼を注ぐ市場があれば歐洲の競爭に對抗して其市場保持の爲めには米國の斯業者は如何なる犧牲を拂ふ事も出來るのである。何故ならば同國の鐵鋼輸出額は國內需要よりもずつと尠なく僅に全生產額の約 5%を占むるに過ぎないので隨て以上の如き市場維持の場合に生ずる失費は現在の國內的繁榮の程度に比すれば、殆ど云ふに足らぬ程であるからである。

(ロ)獨逸の復興　歐洲の形勢に於て最顯著なる特色は獨逸工業の復興と其復興を進捗せしめたる獨逸工業に於ける國內的團結組織の發達とそれから獨逸鐵鋼業が歐洲鐵鋼協約(歐洲大陸製鋼トラスト)中に獲得せる其優越なる地位とである。先之ベルサイユ條約の結果戰前の消費市場より全然分離せられたる鐵鋼業を國際的に協定し、依て歐洲斯業の復興を達成するの急務なる事は一般の認めた所であつた。夫れで 1922 年 10 月獨逸の通貨膨脹時代獨、佛兩國の鋼業者間に獨逸の製造品とローレーンの原料とを交換せんとする或協定、即ち Stinnes-Lubersac 協定の調印を見たのであるが、遂に實施せらるゝに至らず、續て 1923 年には佛國のルール占領となつたので、同年中內地鐵鋼業は全然其生產を停止することゝなつたのである。

獨逸は通貨安定の政策を決定し、證券の利得によりて生活する人々を犧牲として、1923 年 11 月レンテンマークの發行をなし、駭くべき巧妙を以て其安定策の効果を奏し、1924 年 10 月其金貨マークの發行をなすに至つた。一方獨逸鑛業者は其國內及國外に於ける事業を再興せんと努力し、1924 年 10 月、獨逸政府に對して、他の歐洲諸國と完全なる通商條約の協商遂行を慫慂したが、佛國も亦丁度獨逸との協定を結ばんことを欲して居たのである。是はベルサイユ條約によつて、獨逸は每年鐵鋼原料 1,780,000 瓲をローレーンより受くべしとなす强制的條項が、1925 年 1 月 10 日を以て終了するので、佛國は此取極を無期限に延長せんことを欲して居たのである。併し協商は延引せられ、1925 年 7 月佛國新關稅定率が決定するまで中止することゝなつた。蓋し獨逸は其國民の爲に最惠國條款を得る

に至るまでに協商することを欲しなかつたのである。

獨逸工業は其隣接國の競爭に對抗する爲に生產團體の組織によりて、出來得る丈け生產費を低廉ならしむることを考慮するに至つたが、獨逸に於ける此運動は 1924 年 11 月中早くも開始せられたる Rohstohlgemeinschaft（鋼塊シンヂゲート）を以て其頂點に達したのである。此團體組織が其共通利益の爲に如何に迅速に且有效に組織せられたるかは其組織の經過に徵して容易に之を知る事が出來る。即ち 1924 年 10 月 24 日に主要工業家の第一會合催されたるが、3 週間後には其團體組織は既に完成せられ、爾來繼續今日に至り其效果を收めて居るのである。此團體の目的とする所は需要に應じて其生產を調節せんとするに在るのである。

其當時、獨逸工業界の主要人士は、若し國際貿易が急速に回復さるゝものとすれば、他の鐵鋼生產國との間に取極めをなし、現在に於ける需要との權衡上、歐洲生產者一般の生產調節をなすの必要があると云ふ意見を發表した。で、獨佛兩國の工業家は協定の共通基礎を見出さんとして論議を繼續し會議を繰返したが、協定に到達するまでの兩者主張の相違點を云へば、佛國はベルサイユ條約によりて獲得したるローレーンより獨逸への自由輸入の繼續を欲するので、之に反し獨逸の鐵鋼原料生產者等は市場の情勢として之が撤廢を希望し、一方獨逸の仕上工業はルクセンブルヒ、ローレーン及ザールよりの供給を戰前同樣に復歸せしめんことを望んで居たのである。

右の如く交涉に日を送つて居る間に、佛白兩國の爲替相場の低落がずつと續いた結果、獨逸の鐵鋼業は關稅の障壁が設けられてあるにも拘らず、國內市場に於てさへ激烈なる競爭を受くるの結果となつた。で、竟に 1925 年の夾ばに至つて、獨逸の鐵鋼業者は佛白及ルクセンブルヒと協定を成立し、以て自國內市場に於ける外國競爭を調節せんとしたのである。

一方ルクセンブルヒは獨逸の財政系統を脫離して、白耳義關稅同盟に加入したので、元獨逸の東南部を市場とした同國の鐵鋼業は、本來の市場が分割の爲隔離せられたので、夫れに代るべき新輸出市場を見出すべき必要があつた。夫れで同國の鐵鋼業は非常なる熟練と企業心とを以て "Columeta" と云ふ海外販賣團體を創設したが、併し出來得べくば戰前の販路を再興せんことはローレーンと同じく其望む所であつたのである。

(ハ)國際製鋼トラスト　獨逸は Rohstahlgemeinschaft をモデルとして、歐洲製鋼トラスト會議及協定の基礎を立案した。斯くして歐大陸製鋼トラストは、竟に 1926 年9月 30 日ブラツセルに於て調印せらるゝことゝなつた。其調印國は獨逸、佛國、白耳義及ルクセンブルヒであつて、佛國及獨逸は各ザールを代表した、即ち獨逸は其 2/3、佛國は其 1/3 を代表することになつたのである。

生產分擔額の基礎は、1926 年最初の 3 箇月間に於ける各國の生產額で其年產總額は 25,287,000 噸の計算となるのである。併し白耳義は Charleroi 地方に 7 箇月間の同盟罷業かあつたので、それを理由として生產分擔額の割當決定に關し、特別の考慮を要求した。即ち 1926 年最初の 3 箇月は白耳義の生產分擔額の通例の基礎となり得ないものであると云ふ主張であつた。で、協定諸國は以上の基本

として次の如く各國の生產分擔額の百分率を決定したのである。

獨　逸	40.45	佛　國	31.89	白耳義	12.57
ルクセンブルヒ	8.55	ザ　ー　ル	6.54		

併し獨逸は此協定率に對して或特別條項の挿入を要求したのである、即ち獨逸は 1926 年の實際生產見込額よりも幾分低き基礎を承認するのであるから、其補償として協定諸國が保證したる總計數額に增加を來す場合には、其增加額に於ける獨逸の生產分擔額は、他の諸國よりも一層大なる割合たるべく、且基本數額が更に追加額 400 萬噸（此數額は該協定が規定したる制限額である）まで增加したる後は、各國の分擔率は次の如く變更さるゝこと、即ち

獨　逸	43·176	佛　國	31·181	白耳義	11·560
ルクセンブルヒ	8·301	ザ　ー　ル	5·782		

而して獨逸は一度此分擔額に達したるときは、假令最後の總額が如何なものなりとも、以上の獨逸分擔割合は減少せらるゝことは無いと云ふことの承認を要求したのである。

以上の協定と同時にルクセンブルヒ、ローレーン及ザールより獨逸への輸入調節の爲、各協約が獨、佛及ルクセンブルヒの間に成立せられた。以上協約の一に據れば、獨逸へ輸入する總額は、獨逸が或 1 箇年に國內にて消費する額の 6·5％（即ちルクセンブルヒよりの輸入割合は 2·75％、ローレーンよりの輸入割合は 3·75％）に等しき數量を獨逸に於ける時價を以て輸入し、且賣主は全課稅を仕拂ふべきことになつた。

獨逸は尙又、此等輸入は獨逸鐵鋼協會の手を通過すべく、且協會之が仕拂の責に任ずべく、獨逸消費者に對する分配は、獨逸鐵鋼販賣合同の代理人の手を經由すべしと云ふ條項をも確保した。即ち斯うして置けば、佛國の生產者は獨逸の消費者と商業上の關係を再開する利益を確保することが出來なくなるのである。尙其外にザールの生產物は、1 箇年 50 萬噸以上、130 萬噸迄は、無稅にて獨逸輸入を許可せらるべしと云ふ協定も成立したのである。此ザールは將來佛國支配の下に留まる乎、將又獨逸に歸屬すべき乎、を確定する爲、條約の日附より 15 箇年以內にザールの一般人民投票をなすことになつて居るのである。以上協定は獨逸に取つて怜悧なる經濟政策であるのは疑ひなき所であるし、獨逸の鐵鋼業が實際ザールの生產を支配して居ると云ふ事實があるので、一層獨逸の利益となるものである。今やザール鐵鋼業全部は獨逸國內團體たる Rohstahlge-meinschaft の仲間に加はつて了ひ、其生產は獨逸工業の生產に應じて調節せられて居るのである。

此等個々の協約は、只生產分擔額を保有する各個々の國々に對する輸入を調節する取極たるに止まるのであるが、此等の協約が調印せられて以來、墺地利、洪牙利及致須國に對しても同樣の會議が開かれ、夫等諸國との協定は、1926 年 12 月に調印せらるゝの運びに立至り、生產分擔額は 1 箇年に付墺洪兩國は各 40 萬噸、致須國は 130 萬噸となつた、波蘭とも協商進捗中であるが、未だ協定の域に達して居ない。尙此等協商各國に對して、プラーグ鐵工場から一つの提案があつて、目下考慮せら

れて居る筈であるが、此提案は夫等參加諸國間に於て、相互の國境に依る事業の交換をなさんとするものである。換言すれば、致須國は獨逸に於ける同國の凡ゆる事業を獨逸の鐵鋼業に引渡し、それに對して獨逸は致須國內の凡ゆる獨逸の事業を致須國に引渡すと云ふの類である。斯くして全歐洲の鐵鋼業を協定に依て究極的に調節せんとするのであつて、夫れが獨逸の希望なのである。而して以上のトラストに未だ加入せざる主要鐵鋼國は英國、伊國、波蘭及瑞典である。

(2)製鋼トラストに對する英國の態度　大陸協定の成立は、英國斯業者は勿論、各方面に至大の注目を喚起せるは云ふ迄もない。英國一部斯業者は當時大トラストに依り、將來歐洲鐵鋼の生產は制限せられ、其輸出價格騰貴すべきを以て、海外市場に於ける英國の競爭力は却て增加し、有利なる結果を齎らすに至るべしとなすものありたるも、多數は以上の如き利益は單に一時的にして、永續すべきものにあらず、今後トラストが有效に維持せらるゝとせば、其結果は當然英國を壓迫するに至るべく、從て英國の需要する大陸半製品の價格を高め、英國の海外市場に對し、大陸諸國は財政的共助、販賣協定策に出で、英國に當ることなしとせずとの杞憂を懷き、英國斯業者は十分の用意なかるべからずとなし居るのである。

然らば英國が大陸諸國の壓迫を避くる爲トラストに加入し得るやと云ふに、トラスト側に於ては右成立前より英國の加入を勸誘し、今尙門戶を開放し、其加入を希望し居る事情なれば、加入は極めて容易なるやに觀測せらるゝも、英國斯業者が其加入を躊躇する理由は他に在るのである。

(1)トラストの直接の目的は、生產及海外市場に於ける競爭制限に在る。然るに食料品及原料品の輸入に對し、製造品の輸出を以て生命とする英國が、其重要產業の一たる鐵鋼業の海外輸出を制限せらるゝが如き結果となるトラストに加入するは寧ろ自繩自縛となる。

(2)從來の經驗上此種トラストは豫期の成績を得るものでない。

(3)過去に於ける英國產業及通商發達の基礎は、個人の努力及經驗の結晶である。さればトラストの如きは此美點を侵害することゝなる。現に英國鐵鋼業は大小會社が特殊の歷史的基礎の上に群立するものなれば、之を國內的に統一すること自身に於て已に幾多の困難支障がある、況んや國際的聯合に參加するが如きは不可能である。

以上の理由に依り、當初英國斯業者はトラストの壓迫を豫知するも、之が加入の英國の採る道にあらずとせる次第である。然るにトラスト成立後の經過より、又協定國の加入勸誘に依り、英國斯業者間に加入是非論論議せらるゝに至り、漸次發展し、1926 年 12 月本問題に關し一委員會の設立を見ることゝなつた。英國斯界に有力なるドーマン・ロング會社重役アーサー・ドーマンの如きは「過去數年斯業は不振を繼續せるが、其主要原因は市價不安定より來る信用の缺陷に在る。されば斯業刷新市價安定を計る爲には、大陸同業者と協調の要あるは勿論、一方英國に對する大陸輸入品が將來とも半製品に終始すとは思はれず、必ず精製品の輸入あるべきを豫測し得るのである。若し此見解にして誤りなしとせば、大陸諸國と圓滿なる協定を遂げ、英國斯業の地位を擁護するの必要がある」と主張し、英

國斯業者一般の空氣は大陸側と具體的交渉の歩を進むるの可なるを認め、1927 年 2 月トラスト會議に代表者を出席せしむることに決したのである。然し英國加入決定迄には、尙幾多の折衝を要すべく殊に英國要求割當額は 1200 萬噸で、之に對しトラスト側は 900 萬噸を至當とすと傳へらるゝを以て兩者の妥協點を得る迄には尙時日を要することゝなるのであろう。

粗鋼トラスト問題と共に、英國斯業に採つて注意すべき問題がある。夫れは英本國鐵鋼業と英領殖民地に於ける同種工業の協同的傾向である。前述せる通り、英國斯業者は各種事由に依つて歐大陸トラスト加入が荏苒遲延せる結果になつて居るが、もう一つの理由と認むべきは、1926 年秋開催せられた英帝國會議の本國及海外屬領地間の經濟關係問題の經過如何を先づ確めて後、其態度を決定せんとする腹があつたからである。同會議の結果は保守黨政府の希望する通り、英帝國の經濟關係を一層强固のものたらしむる爲、帝國產品の消費奬勵に、又殖民地の本國品待遇等に相當具體的了解が成立したのである。鐵鋼に關して云へば、印度關稅委員會の推奬する印度鐵鋼業保護關稅及英本國品に對する特惠稅の如きは、英國斯業者の希望する或程度のものが出來上つた樣である。又南阿政府に於ても同種計畫が著々として進行しつゝある模樣である。殖民地政府が鐵鋼業に對し保護政策を採ると云ふことは、一見して英本國斯業者に取り不利なるが如く見らるゝのであるが、彼等は此政策に依て外國品に對し、却て彼等の獨占的地步が確保せらるゝものと認めて居るのである。何故かならば殖民地が其產業發達の過程上、鐵鋼業の如き重要產業の勃興する事は勢の不得已ものであり、又殖民地が同種工業の發達は、極度に發達せる英本國製品をより以上需要することゝなるを以て、本國品に特惠的待遇を與へれば、本國斯業者の地步は却て有利なるものとなるからである。同時に英帝國全體として云つても、進步の程度を異にする同種產業の提携は、より以上帝國協同の精神に副ふものなりとの意見を有するものである。之に關し英國鐵鋼業者協會長サー・ウヰリアム・ラークは次の如き意見を發表した。

「殖民地が須要なる原料を產する場合、鐵鋼業が漸次擡頭することは自然の趨勢である。勿論其發達は地方の需要如何に依り、其需要は其地方の人口如何に關聯するものであり、又其發達の程度は必ずしも急速を期待することは出來ない。併し殖民地に於ける此等工業の進步發達は、早晚本國の人口を吸收するものであることを記憶せねばならない。而して殖民地斯業の發達するに伴ひ、此等領土の本國製造品に對する需要は其地の產業能力の發達以上迅速に增大するものである。現在の事實のみに著眼すれば、殖民地の斯業發達は、英本國に對し是迄留保せられた市場に於ける競爭發生を意味する樣に見えるも、將來を達觀すれば、決して然るべきものでない。却て生產品の有無相通、協同提携の實を促進することゝなるのである。例之印度の鐵鋼業保護問題の如きは、其精神に於て競爭政策でなく、英印協同政策のよく體現するものである。之と同一の主義が英帝國全體に亘つて適用さるゝことゝなり、英本國品が特惠的に濠港に、加奈陀に、又南阿に輸出せらるゝことは、啻に英國斯業實際上の利益となるのみでなく、又實に母國と海外領土間の相互經濟關係促進上裨益す

る所尠しとせざるものである」

と云つて居るが如く、英國斯業者は殖民地の斯業保護政策を歡迎するものである。されば英國斯業者がトラスト加入の利益を認めながら尙逡巡するは、先づ帝國內に於ける地步を確保したる上、適當なる時機を見て加入交涉の意圖にあるものと解釋するは、あながち穿ち過ぎたる議論とも云へないと思はれる。(以下省略)

獨逸工業技術員協會主催工業原料博覽會通知の件 本件に關し自 10 月 23 日至 11 月 3 日伯林市カイゼルダム博覽會々場に於て全獨逸工業技術員協會 Verein der Deutschen Ingeieure (V. D. I.) 主催工業原料博覽會開催せらるる筈にして同博覽會は今秋を始めとし今後繼續的に數ケ年に亘り每年順次各種の工業原料を出品し尙博覽會場內に檢査用機械を裝置し出品物品質の檢査を行ひ又各國より同博覽會に出席する專門家をして約 30 分間の講演をなさしめ尙各國よりの同協會宛送付越の論文朗讀會等を催し之に依り工業原料の進步改良、品質の向上、用途の擴張を圖り世界工業界の發達に資せむとするにあり本年度第一回博覽會は鐵鋼並に一般金屬及び電氣絕緣原料に關するものにして特に電氣絕緣材料に付ては興味ある 100 萬ボルトの高壓試驗を實施する筈なり。

就ては同博覽會開催期に渡歐する本邦專門家並に技術員の爲め絕好機會に付き可然關係筋へ御通知相煩度しと本會に通知ありたし。

八幡製鐵所銑鋼生產高 (單位瓲)

	銑鐵	鋼塊	鋼材
昭和2年8月中	53,672	85,795	58,764
〃 年累計	472,482	698,988	501,762
前月比較	−2,567	+3,967	−3,597

7月中本邦鐵鋼生產高 (商工省調査) 單位瓲

(1) 銑鐵 100,386　(2) 普通鋼 122,332　(3) 普通壓延鋼材 109,033

內譯

販賣向壓延鋼片	鋼板		棒鋼	形鋼	軌條	ワイヤロッド	鋼管	其他
5,357	厚0.7mm以下	6,954	37,490	12,849	16,266	1,691	4,184	5,586
	其他	18,656						

米國8月中銑鋼生產高(ニウヨーク10日聯合發電) (單位T)

	8月中	7月中	1月以降計	昨年同期計
銑鐵	2,947,000	2,951,000	25,329,000	26,272,000
鋼塊	3,470,000	3,178,000	30,267,000	31,775,000

以上の銑鐵はアイアン・エーヂ誌、鋼塊は米國鐵鋼協會の調査に依る。

八幡製鐵所 12 月渡鋼材値段發表 (單位瓲圓) (9月 13 日發表)

丸鋼標準物	角鋼	平鋼	山形鋼中小	山形鋼大形	溝形鋼	I 形鋼
86	86	86	86	87	94	87

尙同日より現物鋼材の一部を下の通り改正

丸鋼	平鋼	山形鋼大形	中小形山形鋼	角鋼	溝形鋼	I 形鋼	鋼板 1.6耗以下
91	91	92	91	91	99	92	117

一般條鋼は從前通りとす。

銑鐵市場在庫月報

昭和 2 年 7 月 31 日現在　三菱商事株式會社金屬部

市場	持主別 生產筋	問屋筋	消費筋	合計	前月比較	摘要
	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	
東京	2,775	3,345	5,105	11.225	− 607	
横濱	5,000	—	3,797	8,797	+4,237	
名古屋	2,775	2,940	2,490	8,205	+2,013	
大阪	7,306	18,980	17,030	77,636	+2,581	
神戸		150	34,170			
門司	931	140	2,875	3,946	−1,629	
長崎	—	—	160	160	− 15	
函館	—	50	230	280	± 0	
室蘭	21,729	—	—	21,729	+ 884	
釜石	4,917	—	—	4.917	− 805	
兼二浦	9,160	—	—	9,160	+1,726	
大連	23.840	270	520	24,630	− 860	
合計	78,433	25,875	66,377	170,685		
前月比較	+ 5,031	+ 1,550	+ 944	+7,525		
備考 前年度同月	62,850	26,145	64,902	153,897		

銑鐵市場在庫高月報

昭和 2 年 7 月 31 日現在　三菱商事株式會社金屬部

品種	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他	合計	前月比較
兼二浦	3,370	1,810	3,230	512	9,160	—	—	18,082	+ 449
釜石	175	150	1,250	—	—	—	4,917	6,492	−1,400
輪西	2,290	2,615	5,850	200	—	21,859	—	32,814	+2,195
鞍山	2,165	1,690	10,776	810	18,755	—	—	34,196	+2,172
本溪湖	1,005	700	28,650	509	5,565	—	—	36,429	+ 615
淺野銑	5,000	—	—	—	—	—	—	5,000	+3,500
漢陽	—	—	50	—	—	—	—	50	± 0
揚子銑	—	—	700	—	—	—	—	700	− 100
Tata	575	—	14,100	80	—	—	—	14,755	+ 572
Buru	1,750	800	6,000	1,620	150	—	—	10,320	−1,070
Bengal	670	50	2,000	—	—	—	—	2,720	− 90
Clevlaend	35	—	—	—	—	—	—	35	− 40
Hematite	60	—	300	—	—	—	—	360	− 40
Swedish	97	—	30	—	—	—	—	127	+ 97
Luxembourg	—	90	—	95	—	—	—	185	+ 95
雜	2,830	300	4,700	280	160	150	—	8,420	+ 570
合計	20,022	8,205	77,636	4,106	33,790	22,009	4,917	170,635	+7,525
前月比較	+3,630	+ 2,013	+ 2,581	− 1,644	+ 866	+ 884	− 805	+ 7,525	